

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DAW II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。 また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。					
授業概要						
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成					
【前期】 16～21回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 22～33回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 34～35回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 36～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	音楽理論Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	サウンドクリエイターコース・シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴43年。 1981年より石川優子のアーティストのサポート活動でキーボーディストを始める。1983年より企業VTR、CM映像などの音楽制作、AKAI電子楽器のデモンストレーター活動も始める。2002年よりESP学園講師就任。現在もアーティストのサポート、映像音楽制作等の活動中。					
授業概要						
コードアナライズ、ボイスンギ(ハーモニー)スケール等の理論的アイデアの向上と習得。サウンド作り、作曲、編曲の幅を向上させる。						
到達目標						
既存楽曲のコードアナライズ分析と研究。スケールからのフレーズ作りの向上。音楽知識の向上でサウンドのレベルアップ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	コードアナライズT.SD./SDM.SecDom.、ナチュラルマイナー、ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの解釈と確認の復習。 ドミナントモーション5-1の理解の確認エクササイズ。ダイアトニック上で使えるテンション、b9thインターバルのアボイドノートの解説とエクササイズ。					
【前期】 7～11回目	2-5進行でのA.form/B.formボイスンギ、ドミナント、トライトーン解説とエクササイズ。スプレッドボイスンギ、ドロップボイスンギ、アップバーストラクチャートライアドの解説とエクササイズ。 2-5-1-6の進行のボイスンギエクササイズ、トップノートの流れを意識したボイスンギをエクササイズ。					
【前期】 12～15回目	クロマチックスケールを2つに分けるホールトーンスケールをaugコード/3つに分けるディミニッシュスケールとコード、ドミナントコードとトライトーンの解説とエクササイズ。					
【前期】 16～20回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、オルタード、Lydb7th,Hmp5downスケールの解説。 コードアナライズとコード進行に対してのスケール、アプローチノートの解説フレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 21～25回目	7つのモードスケールと各スケール上のダイアトニックコードの解説。モーダルインターチェンジの解説と楽曲分析にフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 26～29回目	ブルースコード進行の種類と解説、ミクソリディアン、ブルーノートスケールの説明とフレーズ作り、サンプルフレーズのエクササイズ。					
【後期】 30～34回目	ドリアンモード、ペントニックスケール上にできる4thボイスンギの解説。循環コードでの使用エクササイズ。 ハンガリアンマイナースケールなどの異国情緒的スケールの解説、参考コード進行でのフレーズ作りエクササイズ。					
【後期】 35～37回目	コードアナライズ、コード進行に対してのスケール、ボイスンギの復習。 6thdimコードワークの解説とドロップ2ボイスンギも使ったエクササイズ。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～7回目	ビジネス文書					
【前期】 8～13回目	ミュージックビジネス＃1-6					
【後期】 14～32回目	ミュージックビジネス＃7-25					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	外部ライブハウス実習				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を受け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～36回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【前期】 37～38回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 39～71回目	アンサンブルとは何か 課題曲⑤～⑧ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 72～74回目	半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイストレーニングⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント東京ヴォーカルコース卒業。在学中に結成した自身のユニットで楽曲リリースやライブ活動後、卒業から1年でESPにてヴォーカルコース講師に就任。現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとして声優育成ボイストレーニングを始め、アーティストや俳優等のヴォイストレーニングを担当。また、自身の音楽スタジオも設立し、ヴォーカル講師として多数レッスンをしつつ経営にも携わっている。					
授業概要						
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛える為の筋カトレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。					
【前期】 13～16回目	一年次の復習と修正。音量ではなく“響き”を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【前期】 17～19回目	一年次の復習と修正。高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合いをコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	【前期】17～19回目の内容を継続					
【後期】 25～28回目	一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものに身体を使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 29～32回目	一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 33～35回目	今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37回目	今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	SNSマネジメント/セルフプロデュースB		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ヴォーカリスト総合講座		年次	2年次
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴16年。TVCM楽曲の作詞・作曲、メディア出演。有名アーティストのツアーサポートでホールツアーや大型フェスに出演。レコーディング参加及び指導実績多数。				
授業概要					
オリジナル曲または「ライブや音源で発表すること」を想定した楽曲を題材とし、ライブ出演や音源のリリースを目標に質を高めていく。自分の好きなものや思いを発信する機会を増やし、その楽しみを知る。人の心を動かすライブやエンターテインメントとは何かを学生自身が考え、それをクラス内でディスカッションし客観的な視野を持てるようにする。					
到達目標					
ライブやレコーディングで質の高いパフォーマンスを披露し、人を楽しませることができる。自身の歌や音楽で自分自身や他者を喜ばせることができる。自身の音楽性や思い・考えを世の中に発信することができる。また、アーティスト＝表現者としての楽しみや喜びを知る。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・授業概要及び目標の説明、各学生が求める内容や目指す方向性、ライブや音楽活動全般に関する悩み、現状の活動状況や経験値(オリジナルの有無・ストックが有る場合はオリジナル曲数・ライブ経験)及び好きなものや趣味など人間性のヒアリング ・各学生が影響を受けたアーティストの音源や映像を持ち寄り、その理由やどこに惹かれたのかを発表し、感想をクラス内でディスカッション ・レコーディング前に効果的なストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生が歌唱。				
【前期】 6～10回目	・セルフレコーディングに必要な機材の知識・録音方法・録音当日の喉ケア方法(自分に合った飲み物や本番から逆算した起床時間などを見つける手助け)や心構えの指導(マイクとの距離による違い、椅子座り・立ちで歌うメリットデメリットなど)、構成表の作成 ・セルフレコーディングの感想吸い上げ、サブスクやCDにして音源をリリースする方法各種の説明、ライブを想定した楽曲の選曲(クラス内で楽器サポートをする場合はパートの振り分け) ・ライブで演奏をするにあたっての課題の確認、ライブ前に行えるストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生がライブを想定したパフォーマンスを披露。ライブで観客を楽しませる・感動させる・人の心を動かす為に必要なものは何かを考え、現状のパフォーマンスの感想をクラス内でディスカッションし客観的な視野も学ぶ				
【前期】 11～15回目	MCの重要性とイベント趣旨や客層・会場の規模にあったMCの考え方や伝え方(感謝・自分なりのものの見方・楽曲の世界観に没頭しやすくさせる流れなど)、ステージに適さない言葉や伝え方(後ろ向きな言動や言い訳・身の丈に合わない偉そうな上からの物言い・人を不愉快にさせる態度など)、ライブに向けての事前準備の指導 ライブのゲネリハ、当日の流れ・心構え等の再確認 ライブホールを使用し、セルフプロデュースA・Bを前期に受講する学生が1曲(またはワンコーラス)ずつ披露				
【前期】 16～20回目	・イベントの振り返り、各自ライブの反省点、印象に残った出演者及び楽曲、その理由などをクラス内でディスカッション 今後の目標を再設定し、その為に今できることをリスト化。 各自が都度、録音及びパフォーマンスが出来る環境に機材セッティングし、前期授業内で題材とした楽曲を録音しながらパフォーマンス(7/21ライブ)に向き合った度合いと当日の様子も評価対象とする)				
【後期】 21～24回目	・授業概要及び目標の説明、各学生が求める内容や目指す方向性、ライブや音楽活動全般に関する悩み、現状の活動状況や経験値(オリジナルの有無・ストックが有る場合はオリジナル曲数・ライブ経験)及び好きなものや趣味など人間性のヒアリング。 ・各学生が影響を受けたアーティストの音源や映像を持ち寄り、その理由やどこに惹かれたのかを発表し、感想をクラス内でディスカッション ・レコーディング前に効果的なストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生が歌唱。音源として聴いた時に伝わりやすい表現方法やテクニックを学び、演奏で気付いた点や感想をクラス内でディスカッション(歌詞を用意) 楽曲にふさわしいBPM(弾き語りで曲中にテンポが変わる楽曲の場合は基準となる値)の決定・それに沿った演奏 ・セルフレコーディングに必要な機材の知識・録音方法・録音当日の喉ケア方法(自分に合った飲み物や本番から逆算した起床時間などを見つける手助け)や心構えの指導(マイクとの距離による違い、椅子座り・立ちで歌うメリットデメリットなど)、構成表の作成				
【後期】 25～29回目	・セルフレコーディングの感想吸い上げ、サブスクやCDにして音源をリリースする方法各種の説明、ライブを想定した楽曲の選曲(クラス内で楽器サポートをする場合はパートの振り分け)、ライブで演奏をするにあたっての課題の確認 ・ライブ前に行えるストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生がライブを想定したパフォーマンスを披露。ライブで観客を楽しませる・感動させる・人の心を動かす為に必要なものは何かを考え、現状のパフォーマンスの感想をクラス内でディスカッションし客観的な視野も学ぶ、視覚的に見て楽しめる所作や表情をつける ・MCの重要性とイベント趣旨や客層・会場の規模にあったMCの考え方や伝え方(感謝・自分なりのものの見方・楽曲の世界観に没頭しやすくさせる流れなど)、ステージに適さない言葉や伝え方(後ろ向きな言動や言い訳・身の丈に合わない偉そうな上からの物言い・人を不愉快にさせる態度など)、ライブに向けての事前準備の指導 ・ライブのゲネリハ、当日の流れ・心構え等の再確認 ・ライブホールを使用し、セルフプロデュースA・Bを前期に受講する学生が1曲(またはワンコーラス)ずつ披露				
【後期】 30～34回目	・イベントの振り返り、各自ライブの反省点、印象に残った出演者及び楽曲、その理由などをクラス内でディスカッション。試験対策 ・各自が都度、録音及びパフォーマンスが出来る環境に機材セッティングし、前期授業内で題材とした楽曲を録音しながらパフォーマンス(12/22ライブ)に向き合った度合いと当日の様子も評価対象とする) ・今後の目標を再設定し、その為に今できることをリスト化。次に目指すステージやリリースに向けて演奏やパフォーマンスの練習。				
【後期】 35～37回目	発表会(出来る学生は2曲でMCを挟む)				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルクリエイトⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルクリエイトⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験32年。1992年CDデビュー、1999年ボストンへ単身渡米、帰国後2004年ボイストレーナーとしても活動を開始。大手プロダクション所属アーティスト、声優、俳優らを数多く指導する。その他ラジオパーソナリティや楽曲提供も積極的に行っており、現在は音楽プロダクション(株)Mackie-i-Lands 代表取締役の顔も持つ。					
授業概要						
1年次に掴んだ自分のスタイルを更に極める為に、発声、テクニック、ステージングなど全ての面をスキルアップ。個々の声質、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を一年次よりも確立させ、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	一年次にある程度絞り込んだヴォーカルスタイルを学生に口頭で説明させ、実際に歌唱で確認。 声質、音域、現時点で身につけているもの、足りないものを提示及び解説し、残りの一年間で学ぶべき内容を正確に自覚させる。					
【前期】 3～6回目	発声面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 7～10回目	発声面、技術面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ボーシングの設定と変化に関して)					
【前期】 15～20回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて） 前期試験					
【後期】 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して＋支え、滑舌)					
【後期】 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ＋プレスアビール、アクセントなど)					
【後期】 29～30回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 31～33回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて）					
【後期】 34～37回目	後期試験 総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルテクニックⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
一年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音`子音`母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5～8回目	・基本的なスケルトトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 9～12回目	・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践					
【前期】 13～16回目	・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 17～18回目	・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 19回目	前期試験					
【後期】 20～23回目	・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 24～27回目	・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 28～30回目	・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
【後期】 31～34回目	学んだこと全ての確認、復習、修正					
【後期】 35回目	後期試験					
【後期】 36～37回目	学んだこと全ての確認、復習、修正の継続					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	楽曲創作Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	楽曲創作Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験21年 1996年にEMIよりバンドデビュー、1999年より作家として活動し、シンガーソングライターとして活動する傍ら、作詞・作曲家としてSMAP、Crystal Kay等に楽曲提供。2015年日本文芸社より作曲書籍を上梓。バンド・シンガーのプロデュース、編曲を手掛ける。				
授業概要					
個々の楽曲創作への指導： オリジナル曲制作のブラッシュアップ、音源制作の為のアレンジ作業内容への提案、 コースイベントでの発表曲の確認、オーディション・コンテスト等に向けての楽曲アドバイス及び具体的な指摘					
到達目標					
・着実なステップにより各自オリジナル曲の質を向上させる。 ・作曲工程の効率化を図り、楽曲制作時間のスピードアップと各楽曲の質を安定させる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	現時点までの各自作曲方法の見直し ・各自の楽曲完成までの作曲順序の確認 ・楽曲創作についての疑問や迷いの解消				
【前期】 6～10回目	曲の主題を明確にする。曲が持つそもそものリズムの型を理解 ・タイトル、歌詞作成におけるポイントをおさえる ・各自考案した曲原形の持つリズムの型を把握する ・曲展開の考案・作成				
【前期】 11～15回目	サビの前後処理、有効に聴かせる曲構成、流れの習得 ・曲構成を理解し、ブロック毎の流れ・バランスを確認し全体を仕上げていく ・サビメロディーのキャッチーさ、フレーズの印象度を各自客観的に判断する				
【前期】 16～19回目	メロディーと歌詞のバランス感覚、リライトの習得 ・歌詞、メロディーのリライトについて理解する ・各楽曲のパフォーマンスプランの詳細を立てる				
【後期】 20～24回目	リズムを聴かせる曲の創作と秒、小節単位での全体像の把握 ・各自未経験のリズム、テンポ、ジャンルで興味のある物を見つけ作曲に取り組む ・楽曲の雰囲気左右するコードの使い方を理解していく ・自作曲フルサイズでの展開、構成を小節数、秒数単位で調整出来る判断を身に付ける				
【後期】 25～29回目	曲創作技術習得の為の、複数曲並行創作の実施 ・複数曲を同時並行で作曲し、自作曲毎の明確な差別化を身に付ける ・歌詞内容、テーマのシンプル化を実践する ・メロディー、歌詞の反復効果をうまく使用出来るよう理解する				
【後期】 30～34回目	自身にとって自然で歌いやすい音使いを把握し、メロディーを作り、最短の起承転結を持つ1コーラス作りを実施 ・曲中の歌のない部分の効果的な使い方を身に付ける ・1コーラス1ブロックの曲を作り、歌詞と共に短な完結作りを覚える ・曲作りでの自身の細かなこだわりの削ぎ落としを実践し、客観的な視点を持てるようになる				
【後期】 35～37回目	共作曲の実践 ・共作方法の種類を把握し、スピーディに楽曲を形にする ・別作者の作曲したブロックをキー調整し連結出来るようになる ・他者のアイデアを取り入れながら、共作曲で統一感のある全体の流れを調整する				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	AG & KEY II		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	AG & KEY II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	シンガーソングライターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	アコースティックギター:実務経験30年、1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、サポートギタリスト等で活動している。 キーボード:実務経験14年国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワークショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。					
授業概要						
アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 アコースティックギター:初心者から中級者に向けたアコースティックギターの扱い方。色々なジャンルの弾き方。DAWでの作曲におけるギターの扱い方。 キーボード:1年生で習得した基礎を元に、様々なジャンルやスタイルに触れる。コードワークを更に広げる。						
到達目標						
アコースティックギター:テンションコード含めたコードワークに対応出来るようにする。コードフォームを工夫したアルペジオ、カッティング。3フィンガー、4フィンガー使い分け。ソロギター的なアプローチ。 キーボード:弾き語りや自身の楽曲制作にキーボード楽器を積極的に取り入れ、作風や表現を広げていく。コードアレンジができる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アコースティックギター:レベルチェック及びそれぞれの音楽スタイルをチェック キーボード:コードベーシックの確認					
【前期】 7～11回目	アコースティックギター:ジャンルに合わせた演奏スタイル① キーボード:テンションコードのボイスニング					
【前期】 12～16回目	アコースティックギター:ジャンルに合わせた演奏スタイル② キーボード:コードアレンジ、転調					
【前期】 17～20回目	アコースティックギター:ジャンルに合わせた演奏スタイル③ キーボード:両手で作るリズム					
【前期】 21回目	「前期試験」					
【後期】 22～25回目	アコースティックギター:3フィンガーピッキングのバリエーション キーボード:スタイル別のバックングリズムパターン①					
【後期】 26～30回目	アコースティックギター:ジャンルに合わせた演奏スタイル④ キーボード:スタイル別のバックングリズムパターン②					
【後期】 31～33回目	アコースティックギター:アンサンブルの中でのギター演奏 キーボード:アンサンブルの中でのキーボード演奏					
【後期】 34回目	「後期試験」					
【後期】 35～37回目	アコースティックギター:簡単なソロギターのアプローチ キーボード:オリジナル曲または課題曲演奏、年間のまとめ					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						